

<p>廿日市市原市民センター</p>	<p>昭和 60 年に開館(平成 27 年「原公民館」から名称等変更。)した地域における生涯学習とまちづくりの拠点施設である。少子高齢化が進むなかで、「原を想う」「原に住みたい」と思い、将来のまちづくりの担い手となる子供を地域全体で育てることが地域の喫緊の課題であると捉え、豊かな地域資源(自然や人)を活用し、地域ぐるみで、乳幼児期から学齢期までの子供の健全な育みを応援する環境をつくり、まちづくりや地域・家庭の教育力向上の取組を推進している。</p> <p>親子サポート事業「はらきっず&amp;ママカレッジ」では、幼児を対象とした自然体験学習等を通じ、未就園児の学習と親同士の関係を広げる場をつくり、子育てを応援する取組を行っている。住民から活動場所である田や畑を借りたり、活動のサポートをしてもらったりするなど、地域人材を積極的に活用し、地域との連携による地域の魅力を発信する事業づくりを進めている。</p>
<p>神石高原町神石公民館</p>	<p>本公民館は、神石高原町の北西部の高齢化率 50%を超える地区に位置し、地域と密着した地道な公民館活動を行っている。地区の自治振興会や各種団体、学校等と連携を図り、通学路の防犯パトロール、あいさつ運動、放課後子供教室の実施等、地域ぐるみで子供を育む取組を行うほか、地域の宝を探す「じんせき高原学びネットふれあい J-0X」講座、食育や食文化に関する教室等、多数の事業を開催し、地域の文化や歴史を次世代に伝える取組を推進している。</p> <p>いきいきふれあい教室では、若者の都市部への流出や少子高齢化が進み、伝統的な生活様式の継承が困難になる中、最も身近で大切な「食文化」に着目し、郷土食や伝統食の掘り起こしとそのレシピ化等、食の伝統・文化を伝承する事業を実施。活動の成果は、「神石高原町残しておきたい おふくろの味」として発刊され、学校給食メニューへの導入や地産地消活動等、幅広く活用されている。この事業を通じ、参加者や地域住民の意識が変わり、地域の生きがいづくりやまちづくりへとつながった。現在は、後継者の育成や次の冊子発刊を目指し、新たな取組を進めている。</p>
<p>呉市宮原まちづくりセンター</p>	<p>昭和 43 年に「宮原公民館」として開館し、平成 26 年に「同まちづくりセンター」へ移行した、市民協働のまちづくりと生涯学習を推進する地域の拠点施設である。まちづくり推進委員会を中心に、「宮原ホテルの里」の整備や「宮原ホテル祭り」に取り組むほか、地域住民の交流の場であるお茶の間サロン「きらく亭」の開設等の高齢者への支援や、若年層の利用促進を目指した子供や若者対象の事業に力を入れるなど、世代間の交流等を通して地域課題解決の取組を推進している。</p> <p>地区内の学校と緊密に連携し、市教育委員会のキャリア教育事業(中学生の職場体験)を活用して、地域の小学生を対象とした講座(夏休み宿題ラストスパート教室)を中学生自身が企画・運営・指導する事業に結び付けて、「夏休み宿題ラストスパート教室」「科学研究やりとげ講座」等を行い、次世代の地域リーダー育成の取組を進めている。</p>